

白洲正子の旧邸武相荘で「能」の楽しみを覚える講座

お能への誘いの会 第15回

テーマ 世阿弥作の能

三輪

神遊



うまさけを三輪のはふりが祝ふ杉手ふれし罪か君に逢ひがたき

万葉集・丹波大女娘子（たにはのおおめおとめ）

うまさけ（味酒）は、三輪の枕詞、はふり（祝）は神官の意で、その神官がいつきまつる三輪の神杉に手をふれた罪で、あなたに逢うことができないのでしょうか、と嘆いた歌である。

この一首の中には、酒と、杉と、男女の交りと、三輪山にまつわる歴史のすべてが秘められている。三輪は大和の中でもっとも古くから崇められた神山で、古事記には、その山の神が、夜な夜なイクタマヨリ姫のもとへ通ったと記されている。やがて姫は身籠ったが、夫が誰ともわからぬので、麻糸を針に通して、ひそかに男の衣の裾に縫いつけておいた。明方になって、男が去ったあとを辿ってみると、その糸は鉤穴を通りぬけ、三輪山の社でとまっていた。そこではじめて相手が人間ではなく、三輪の神の化身であることを知ったという。

—白洲正子・著「木 なまえ・かたち・たくみ」

平凡社ライブラリー刊より

講師



古美術評論家
五蘊会会長・観ノ会発起人

青柳恵介氏



能楽師 シテ方喜多流

友枝雄人氏



能楽師 小鼓方幸流

成田達志氏

〈ものがたり解説〉 青柳恵介

古代神道と三輪の山

〈対談・謡と小鼓の実演〉 友枝雄人・成田達志

能「三輪 神遊」

神遊という演出について

日本の芸能の起源

【日程】 2024年2月24日(土) 15:30~17:00(開場15:00)

【会場】 旧白洲邸 武相荘 / 定員40名(全席自由)

【料金】 下記いずれも武相荘ミュージアム2割引特典付

(A)講座 3,800円

(B)講座 + 観劇チケット付

舞台本番である4/20観ノ会第七回公演「三輪 神遊」のチケットを1割引でお求めいただけます。詳細はお申込先をご確認ください。

【お申込】 武相荘公式ウェブサイト <https://buaiso.com> からお申し込みください。

講座終了後

参加者限定ディナーも開催!

(※別途料金/要事前お申込)